インド・オディシャ州における銀線細工フィリグリー

――ソーシャル・ビジネスの可能性に関する実践的研究――

平成 24 年入学
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
派遣国：インド
上田　彩季

キーワード：フィリグリー，ソーシャル・ビジネス，実践的研究

1. 対象とする問題の概要・研究目的

1.-1.　ソーシャル・ビジネスについて

近年，貧困などの社会問題の解決を目的として収益事業に取り組む，ソーシャル・ビジネスと呼ばれる事業体への関心が世界的に高まっている．この事業モデルの先駆的存在であるグラミン銀行およびその創始者のムハマド・ユヌス氏の著書『ソーシャル・ビジネス革命―世界の課題を解決する新たな経済システム―』において、ソーシャル・ビジネスは以下のように定義されている．

> *ソーシャル・ビジネスは新しい事業形態であり、利潤を最大化する従来のビジネスとも、非営利組織とも異なる。ソーシャル・ビジネスには二種類がある。一つ目は、社会問題の解決に専念する「損得なし、配当無し」の会社で、企業を所有する投資家は、上がった利益をすべてビジネスの拡大や改善に再投資する。これを、「タイプⅠのソーシャル・ビジネス」と言う。二つ目は、貧しい人々に利益が分配されれば貧困が緩和されるため、この種のビジネスは当然ながら社会問題の解決に役立つ*[1]*。*

しかし既往の研究やムハマド・ユヌス氏の著書において，ソーシャル・ビジネスが持続的に成功するための条件は示されていない．

1.-2.　インド・オディシャ州におけるフィリグリー

インド・オディシャ州の古都カタックには，繊細なデザインで世界的に高い評価を受けている銀線細工，フィリグリー（Filigree）が伝わっている（図１）．しかし，近年カタックにおけるフィリグリーは衰退の一途をたどっている．既存研究においては，その衰退の要因について，中間業者―職人間の搾取的な関係のみに焦点があてられており，その関係を対等にすることや，国家の補助が解決法として指摘されていたが，これらはフィリグリーを現代社会で生かすための根本的な解決手法ではな

図 1　フィリグリー

[1] ムハマド･ユヌス 2010.『ソーシャル･ビジネス革命―世界の課題を解決する新たな経済システム―』早川書房

い．

1.-3.　本研究の目的

本研究の目的は，インド・オディシャ州における銀線細工フィリグリーを現代社会で生かすためのソーシャル・ビジネスに実践的に取り組むことによって，ソーシャル・ビジネスが持続的に成功する要因を明らかにすることである．筆者は，オディシャ州の州都ブバネーシュワルを拠点とする NGO 団体である MUDRA FOUNDATION の活動の一環としてソーシャル・ビジネスの立ち上げに取り組み，フィリグリーに関するソーシャル・ビジネスの可能性を検討した．

2.　フィールドワークから得られた知見について

2013 年 8 月 1 日～10 月 11 日にかけておこなった現地調査では，フィリグリーのソーシャル・ビジネスの事業立ち上げのための準備をしながら，オディシャ州の工芸品を用いたソーシャル・ビジネスに取り組む他の海外 NGO 団体を観察して，その両者を比較した．これらの比較により，ソーシャル・ビジネスが持続的に成功するためには，現地 NGO が大きなカギを握っていることが明らかになった．現地 NGO の主な役割は以下の 3 つである．

A)　トランザクションコストを下げる．

B)　開かれた社会関係を作る．

C)　知的財産権がオープンソースである．

これらの 3 つの条件が整ったときにイノベーションが起きて，ソーシャル・ビジネスが持続的に成功すると考えられる（図２）．

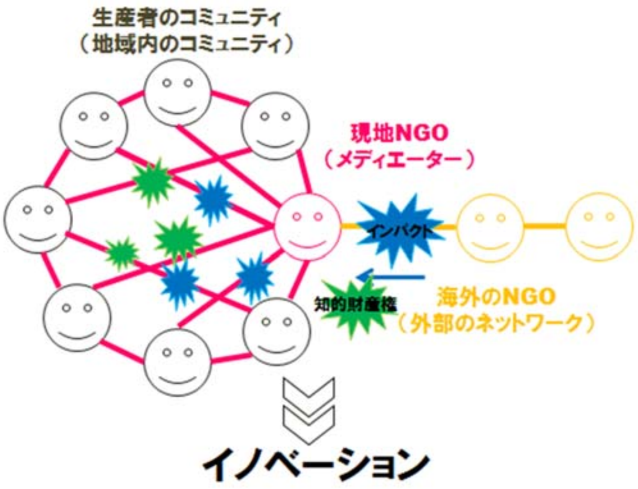

図 2　イノベーションが起こる過程

今後の展開・反省点

今後は調査で得られたデータをもとに議論を重ねて，予備論執筆にむけて考察を深めていきたい．今回の現地調査では，予定していた調査を全く行うことが出来ずに戸惑ってしまうこともあった．しかし，現地の方々の温かい協力によってなんとか予備論執筆に必要なデータを集めることが出来た．インド・オディシャ州での現地調査は今回で 3 回目であり，来年から一般企業で就職を予定している筆者にとって，今回が最後の現地調査であった．オディシャ州に行くたびに筆者を本当の家族のように温かく迎え入れてくれるホームスティ先の方々や，現地のパートナーである MUDRA FOUNDATION のスタッフの方々と過ごしたひと時は，日本では決して経験することの出来ない夢のような時間で，筆者にとって間違えなく一生の宝物である．このような貴重な機会を与えてくださった JASSO の方々，日本からあたたかくサポートして下さった臨地教育支援センターのスタッフの方々に深謝したい．